

アルミ圧延品生産は増加続くも二次合金生産なお減少

橋本健一郎氏 リポート②



橋本健一郎氏

アルミニウムクラップと合金スクラップが大幅増

■国際概況

一月前半は米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録を受けた

ドル高銅剤や、オミクロン株の新規感染が拡大

が二六・六%増の一萬一四三七t、アルミ缶が四四・五%減の五三五八t。

輸入は新地金が前年比三・五%増の一〇万六・三五七t、二次合金が五・七%増の一〇万七六一t、スクラップが四四・一%増の六一七t、合金スクラップは二・六%増の八一五七t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表のアルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は、前年比六・三%増の一五万二五三八tと一ヶ月連続プラス。

荷動向によれば、板類・鉄出生産合計は前年比六・三%増の八万九千五百tと四ヶ月連続マイナス。

出荷は八%減の六万一六〇五tと四ヶ月連続マイナス。

■国内概況まとめ

日本自動車版元協会発表のアルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・五%減の一〇万七、一一三台。

台数は前年比六・八%減の六六万九、五一一台。輸出は〇・五%増。

■自動車生産

日本自動車版元協会発表のアルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・五%減の一〇万七、一一三台。

台数は前年比六・八%減の六六万九、五一一台。輸出は〇・五%増。

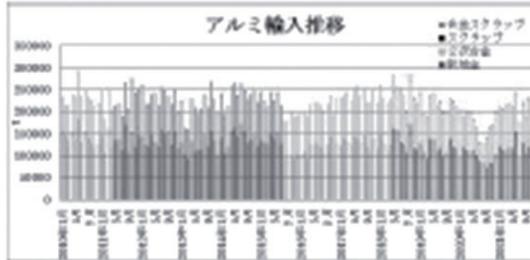
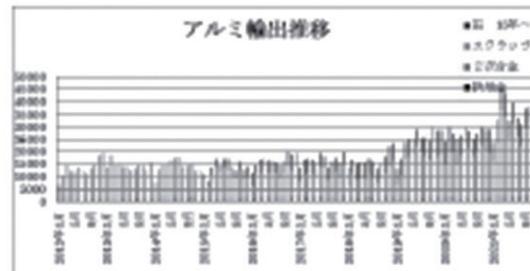
■自動車版元

日本自動車版元協会発表のアルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・五%減の一〇万七、一一三台。

台数は前年比六・八%減の六六万九、五一一台。輸出は〇・五%増。

金地金が前年比二・一%減の二・三五t、二次合

金地金が一九・一%増の一・九九九t、スクランプ



スクラップ流通在庫、異調なLMEアルミ相場も入荷は少ないか

(四面より続く)

【住宅着工戸数】

十一月の新設住宅着工は、持家は減少したが、賃家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比四・二%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前年比一・五%の減少となつた。

新設住宅着工戸数は六万八、三九三戸。前年同月比四・二%増、一〇カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は五、七〇一千坪。前年同月比五・九%増、九カ月連続の増加。季節調整済年率換算値では八三万八千戸。前月比一・五%減、一カ月連続の減少。

【アルミニウム・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比六・三%増の一五万三、五三八tと一カ月連続プラス。

このうち、板類は九万一、五六九tで九・一%増と一カ月連続プラス、押出類は六万〇、九六九tで一・四%増と一カ月連続プラス。アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は、前年比六・五%減の六万一、九八一tと四カ月連続マイナス、出荷は八%減のルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比六・六〇五tと四カ月連続マイナス。

【輸入】

アルミ輸入は、アルミ新地金が前年比一二・一%減の一三五七t、二次合金が一九・一%減の一、九九九t、スクラップが二六・六%増の二万一、四三七t、アルミ缶が四四・五%減の五、三五八t。

【回避】

アルミ輸入は、アルミ新地金が前年比五%増の一〇万六、三五七t、二次合金が五・七%増の一〇万〇、七六一t、スクラップが四四・一%増の六、一七t、合金スクラップが二一・六%増の八、一五七t。

前年比六・三%増の一五万三、五三八tと一カ月連続プラス。

今後プラスが続くかの動向に注視。

日本アルミニウム合金協会が発表したアルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は、前年比六・五%減の六万一、九八一tと四カ月連続マイナス、出荷は八%減の六万一、六〇五tと四カ月連続マイナス。

今月も半導体、中国からの部品供給の遅れによる自動車生産販売の減少に伴う減少と分析。

いつプラスに戻るか注視。

・アルミ輸入は自動車生産の減少を受けて一次合金、スクラップが増加。

・アルミ輸入は輸入埠の高騰による代替需要の国内玉の不足から、スクラップと合金スクラップが大幅増。

【スクラップ・景況予想】

流通(一次問屋)在庫はLME価格が一八〇〇一ニ、一〇〇ドルと高騰したが、自動車生産、住宅着工数の減少から売りにくく、さりとて入荷も少なそう。

需要面に関しては、北京オリンピック終了後の中国挽回生産から、メーカー需要も回復するのではないか。

【LME・為替予想】

① 今月は

①ロシア・ウクライナ情勢

②米中の金融政策の動向

に左右される。

①に關しては

中国に關しては、北京オリンピック終了後、経済再生のための生産再開金融緩和が行われるのではないか。正面切っての戦争でロシアが勝つ可能性はなく、さりとて引き下がるわけにもいかず、当面はお互いの引かない演出!が続くのではないか。

②に關しては

一触即発とも思われる報道も一部ではあるが、正面切っての戦争でロシアが勝つ可能性はなく、さりとて引き下がるわけにもいかず、当面はお互いの引かない演出!が続くのではないか。

米国に關しては、FOMCで三月に金融引き締めを行うことを示唆していること、インフレが米市民の生活に影響し出していることから、引き締めは行われるのではないか。これらを踏まえた二月のアルミ価格は、一九〇〇一ニ、一〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一一〇円、一一五円(TTM)台を予測。スクラップ・購買価格に関しては、据え置きから一〇円高程度と予測している。